

インドネシア シャクアラ大学・数理学研究科との部局間学術交流協定が更新されました (2019/11/7)

テーマ：2004年インド洋津波、2011年東日本大震災、防災全般
場所：災害科学国際研究所（宮城県仙台市青葉区）

2019年11月7日、東北大学 災害科学国際研究所とインドネシア シャクアラ大学 数理学部との部局間学術交流協定が更新されました。今回の更新により、津波研究において幅広く津波予測・モデリング、被害と脆弱性、復興計画、まちづくり、予警報システム、避難・減災計画、教育・啓発、被災地復興の検証、被災教訓の伝承、今後の展望・課題など、多面的な議論を展開し、今後の世界の津波被害軽減に向けての教訓を共有することが期待されています。

調印式の出席者は以下の通りです。

「東北大学側」

植木俊哉 教授（理事・副学長）、今村文彦 教授（当研究所 所長）、越村俊一 教授、サッパシー・アナワット 准教授（災害リスク研究部門）、ボレー・セバスチャン 准教授（情報管理・社会連携部門）

「シャクアラ大学側」

Samsul RIZAL 教授（学長）、Teuku Mohamad IQBALSYAH 教授（数理学研究科長）、Muzailin AFFAN 博士（国際交流室長）、Khairul MUNADI 教授（津波防災研究センター長）

本学 HP：<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2019/11/news20191119-02.html>



調印式の様子



懇談会の様子



集合写真

文責：サッパシー アナワット（災害リスク研究部門）